公開講演会

第１部

13:10 ～ 14:15

講堂

研究者・伝承者・教育者の幸せな連携を考える
――京都の六斎念仏をめぐって――

第１部　京都の六斎念仏公演

13:10	公開講演会の主旨説明	田中 多佳子
13:15	解説「京都の六斎念仏と芸能六斎」	福持 昌之
13:25	伏見桃山子ども六斎教室による芸能六斎公演 演目　《四つ太鼓》《猿まわし》《越後さらし》	
13:45	京都中堂寺六斎会による芸能六斎公演 演目　《六段》《すがらき》《石橋》《四つ太鼓》《七草》《祇園ばやし》	

++

京都の六斎念仏

名称は「不吉とされる六斎日には精進潔斎して念仏を唱えよ」という仏教の教えに由来。芸能としては、空也上人が托鉢の鉢と瓢箪を叩いて歓喜勇躍し「南無阿弥陀仏」と唱えた「念仏」が起源とされる。京都市内各所に伝わる「六斎念仏」は、1983（昭和 58）年に国の重要無形民俗文化財に指定された。六斎念仏は、鉦を叩きながら念仏を唱えるものが、次第に芸能化したものであり、京都周辺の農村部では多くの講が組織され活動をしていた。六斎念仏の講には、近世以降、能楽や歌舞伎の演目や、祇園祭の祇園囃子など、さまざまな芸能を取り入れて展開したところもあった。現在、旧来の念仏主体のものを「念仏六斎」、芸能化が著しいものを「芸能六斎」と称している。現在、「京都六斎念仏保存団体連合会」に加入する 14 団体のうち、中堂寺六斎会を含む 10 団体は芸能六斎を伝え、その大半が「こども六斎教室」の活動をしている。

出演者

伏見桃山子ども六斎教室

文化庁の伝統文化こども教室事業（現、伝統文化親子教室事業）の開始された 2003（平成 15）年 4 月から、その助成を受けて活動を続けている。当時の京都六斎念仏保存団体連合会長の呼びかけに、他の 7 団体と共に、藤田加代教諭率いる伏見桃山子ども六斎教室も名乗りをあげて発足。京都中堂寺六斎会の指導のもと、現在、小学 3 年生から中学校 3 年生までの希望者 30 余名が、京都教育大学附属桃山小学校を活動拠点として、8 月をのぞく毎月 1 回の練習に参加している。

京都中堂寺六斎会

今日の京都市下京区地区に伝わる六斎念仏の保存会。江戸後期に地元の庄屋塩見八右衛門が創始した。周辺地区の六斎念仏と互いに影響しあいながら、長唄・地歌・歌舞伎などの要素も取り入れた娯楽的色彩の強い「芸能六斎」を伝える。70 代の長老から小学生まで幅広い年齢層で構成され、2003（平成 15）年からは女性の参加を認め、今日では半数近くを占める。地区内で「光徳こども六斎教室」の活動をするほか、「伏見桃山子ども六斎教室」の指導にもあたっている。

福持 昌之

非会員。民俗学研究者。愛知川町史編さん室学芸員、愛荘町愛知川観光協会事務局長を経て、2009 年より、京都市文化財保護課の文化財保護技師として民俗文化財を担当。京都市の伝統文化親子教室事業の窓口担当として、助言指導にも携わる。プライベートでは、1989 年から奈良・薬師寺修二会（花会式）、2005 年からは同寺の最勝会の行事に奉仕している。